

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策

( 中間・最終 )

中学校区 校番 17 学校名 呉市立昭和北中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	<p>基礎的・基本的な内容の習得を図り、思考力・表現力(コミュニケーション力)を養う。</p>	<p>分かりやすい授業による学習意欲の喚起 読書活動の推進 自分の志を表現できる生徒の育成 言語能力、情報活用能力、課題発見・解決能力等の育成</p>	<p>○授業が分かりやすいと感じている生徒の割合(アンケート調査)は85%で目標値に達していない。授業の最後に「めあて」が達成できたかどうか「振り返り」を行っている生徒の割合(アンケート調査)が79%であることから、「めあて」が達成できたかどうかの「振り返り」が不十分であることが分かる。</p> <p>○授業において友だちの意見が参考になると感じている生徒の割合(アンケート調査)は91%で目標値に達している。ペア・グループ学習の成果であると考えられる。</p> <p>○1か月の間に本を1冊以上読んでいる生徒の割合(アンケート調査)は64%で目標値に達している。今年度から朝読書を再開したこと、週1回(水曜日)昼休憩を設定し図書室を開館した効果であると考えられる。</p>	<p>○「めあて」について「振り返り」を重視する授業改善を行い、分かりやすい授業づくりをおこなう。</p> <p>○今後も、ICTを効果的に活用するなど授業改善をすすめる。</p> <p>○図書委員会を活用し、図書室や学級文庫を充実させることで朝読書などをすすめる、読書活動を推進する。</p>
	<p>基本的な生活習慣を身に付け、進んで他者とかかわりながら、社会に貢献しようとする生徒を育成する。</p>	<p>「自らへの自信」の涵養及び道徳的実践力の向上 規範意識を涵養 安心・安全な環境</p>	<p>○授業を通しての自己有用感の向上 自分にはよいところがあると思う生徒の割合が低い。授業規律等に課題がある生徒が多く、授業での個別指導や声かけができていないことが原因だと考えられる。</p> <p>○生徒指導規定を核とする組織的な指導の推進による自己指導能力の育成 生徒会中心による着ベルキャンペーンや校内巡視により時間を守る生徒の意識は高まってきている。しかし、一部の生徒に限るが服装や髪型など規定違反の生徒も増えてきている。指導にも従わない生徒もいる。</p> <p>○災害から自分の命を守る意識の向上 授業や防災訓練で災害について学習したが、学年により時間が十分確保できていないなど統一した指導ができていないことがあった。</p>	<p>○引き続き全教職員で見回り等を行い授業規律の徹底をはかる。授業等での生徒への肯定的な声かけを増やしていく。</p> <p>○生徒会を中心としたキャンペーン活動を取り入れ、生徒同士で声かけできる環境を構築していく。 繰り返し指導が入らない生徒に対しては保護者連携を密にしていく。</p> <p>○全学年で共通した教材や資料提供していく。 地域の方との防災訓練や講演会を実施していく。</p>

*	<p>活力があり、主体的に体力・運動能力の向上に取り組む生徒を育成する。</p>	<p>活力を喚起する体験活動の充実</p> <p>家庭・地域・学校生活を通しての主体的な体力づくり、運動能力の向上</p>	<p>○活力を喚起する体験活動の充実 「部活の時間は楽しいです」は74%である。部活動の活性化に課題がある。</p> <p>○家庭・地域・学校生活を通しての主体的な体力づくり、運動能力の向上 体育の授業及び「くれ・チャレンジマッチ・スタジアム」を活用することで目標達成を目指しているが、男子は握力、上体おこし、長座体前屈、50m走、立ち幅跳び、ボール投げで全国平均を上回り、女子は握力、長座体前屈、50m走、ボール投げで全国平均を上回ること、4種目が全国平均を上回ることができた。</p>	<p>○部活動の活性化 楽しいだけでなく、辛いことや苦しいことをのり越えること充実感・達成感を得られる部活動経営に引き続き取り組む。</p> <p>○今後は女子の体力向上にも 力点を置いた指導を行う。</p>
---	--	---	--	--

業務改善	<p>持続可能な教育環境の整備</p>	<p>教育活動へのやりがい</p> <p>長時間勤務の削減</p>	<p>○教職員間のコミュニケーションの充実 親睦会も実施でき、職員室での教職員のコミュニケーションも昨年に比べて深まっている様子が窺える。</p> <p>○週1回の定時退校の徹底 水曜日を定時退校日としている。部活動がないため普段より教職員の退校時間は早い。定時退校の徹底はできていない。</p> <p>○部活動休業日の定着 会議はできる限り少なく、校内研修や職員連絡会は夏季休業中や部活動休養日、定期テストの午後を利用して行った。</p> <p>4月から8月に時間外勤務が月45時間を越えない教職員の人数は、4月17人、5月16人、6月19人、7月21人、8月39人で、月平均が22人であった。これは全体の57.4%にあたり目標を達成できなかった。</p>	<p>○教職員間の繋がりを大切に する。</p> <p>○会議や研修の開催日や内容を引き続き精査していく。</p> <p>○定時退校日以外もできるだけ早く帰っていただくよう声掛けを行う。</p> <p>○入退校管理システムを活用する。</p>
------	---------------------	-----------------------------------	---	---